

「簡易型地震警報器（EQアラート）の公開」

（ 協同組合通信/日和見論弾 ） 平成 18 年 11 月 08 日

「地震から1人でも多くの命を救いたい」という商品が、10月に東京ビッグサイトで開催された危機管理展で公開され好評を博した。

現在、科学的な地震予知は不可能とされているが、地震予知システムとして気象庁の緊急地震速報が今年の8月1日から開始した。JRは、1992年ののぞみの運行時から地震対策の「ユレダス」で安全管理システムを運用中。

さて、緊急地震速報はマスメディアやネット発信にて、一般への伝達となり次のプロセスを経るためにタイムラグを生じ、その短縮は現在の最新鋭のスーパーコンピュータを駆使しても不可能である。すなわち、地震発生～検知～データ処理～通報という、地震を捕らえ震源地や地震の強さなどの解析に要する物理的に短縮できない時間がある。この時間は最短で6秒から10秒程度とされている。阪神淡路のような直下型の大震災の場合は、この時間差が決定的な問題であり、解消できない。

また、仮に一般へ普及した時に、各家庭や個人毎に情報を伝える通信システムとして、何を活用するかがポイントだ。一例として携帯メールの場合、インターネットを介する必要があるが、一斉同報のトラフィックがパンクすることが容易に想定され、その解決策はない。テレビやラジオ放送の場合、全員が24時間休みく視聴していることが必要不可欠となり、現実的といえず課題が多い。しかも、それらを解消する通信インフラ整備を要し、その莫大な資金や運用コストを誰が負担するのか全く議論されていない。

一方、簡易型地震警報器（EQアラート）は、データ処理～通報のプロセスに関わる時間がほぼゼロ。現状では最も速く地震のP波のみを補足し、誤作動がなく赤いランプの点滅やブザー音で警告する。家庭の外壁の屋内側に取り付けるだけの簡易型で、直ぐに導入可能かつ安価。

地震の危険を直接伝える警報器の設置は、万一の際に迅速な対応が可能となり、個人の判断で震災被害の軽減、2次災害に巻き込まれる危険性回避など減災につながる。欧米で40万台設置実績の地震から命を守る、確かな商品の登場である。

（ 気象情報システム株式会社 高津敏 ）